

坂井輪地域の公共施設の現状と課題

課題やその解決に向けたアイデアなど、ご意見をお寄せください。



ワークショップでは、市が示した坂井輪地域の公共施設の現状と課題をもとに、各施設の課題やその解決に向けての方策（アイデア）について、議論が行われました。

新通小学校

- 児童数増加に伴い、2020年度開校に向けた分離新設校を整備中
- 学校分離に伴い、教室の利活用の検討が必要

坂井輪児童館

- 小学生及び乳幼児が健全な遊びを通じて、健康増進・豊かな情操を養うことを目的とした施設
- 築後約50年経過
- 耐震性が低い

新通ひまわりクラブ第1

新通ひまわりクラブ第2・第3

- 第1は、学校敷地に建設
- 第2・第3は、学校近隣に借地して建設
- 学校分離後は、登録児童数が半数程度に減少する見込み

坂井輪中学校
坂井輪地区公民館
坂井輪図書館
西区役所
坂井輪健康センター
坂井輪児童館
新通ひまわりクラブ第1
新通ひまわりクラブ第2・第3
坂井保育園
坂井東小学校
坂井東ひまわりクラブ
老人憩の家西川荘
ひまわりクラブ（新設校）
新通小分離新設校

新通小分離新設校イメージ

- 2020年4月の開校に向け整備中
- 学校一般開放として、地域も利用できるボランティア室を整備予定

坂井輪保育園

- 築後42年経過、耐震補強済
- 駐車場の関係で、送迎時に周辺が混雑
- 「市立保育園配置計画」を策定。

老人憩の家 西川荘

- 60歳以上の市民のための施設で、無料で利用できる施設
- 市内老人憩の家は更新しない方針
- 築後37年経過

ご意見・お問い合わせはこちらまで

地域別実行計画コミュニケーション事務局
（西区地域課・財務部財産活用課）

郵便 〒950-2097
新潟市西区寺尾東3丁目14番41号

メール chiiki.w@city.niigata.lg.jp



ワークショップで配布した資料は、市ホームページに掲載しています。

電話 025-264-7161

FAX 025-269-1650



新潟市 財産経営NEWS 広報紙 第2号

<発行者>
地域別実行計画
コミュニケーション事務局
◆西区地域課
Tel.025-264-7161
◆財務部財産活用課
Tel.025-226-2387
(平成30年11月発行)

一緒に考えませんか？ 坂井輪地域のまちづくり ～公共施設のこれから～

新潟市では、平成27年7月に、「財産経営推進計画」が策定されました。

この計画は、少子・超高齢化社会などに対応し、将来世代に過度な負担を強いることのないよう、市有財産の効率的な管理・利活用を図っていくための方針を定めたものです。

この計画に基づき、地域の身近な公共施設については、地域のみなさんと市・区役所が協働で、そのあり方について検討していきます。

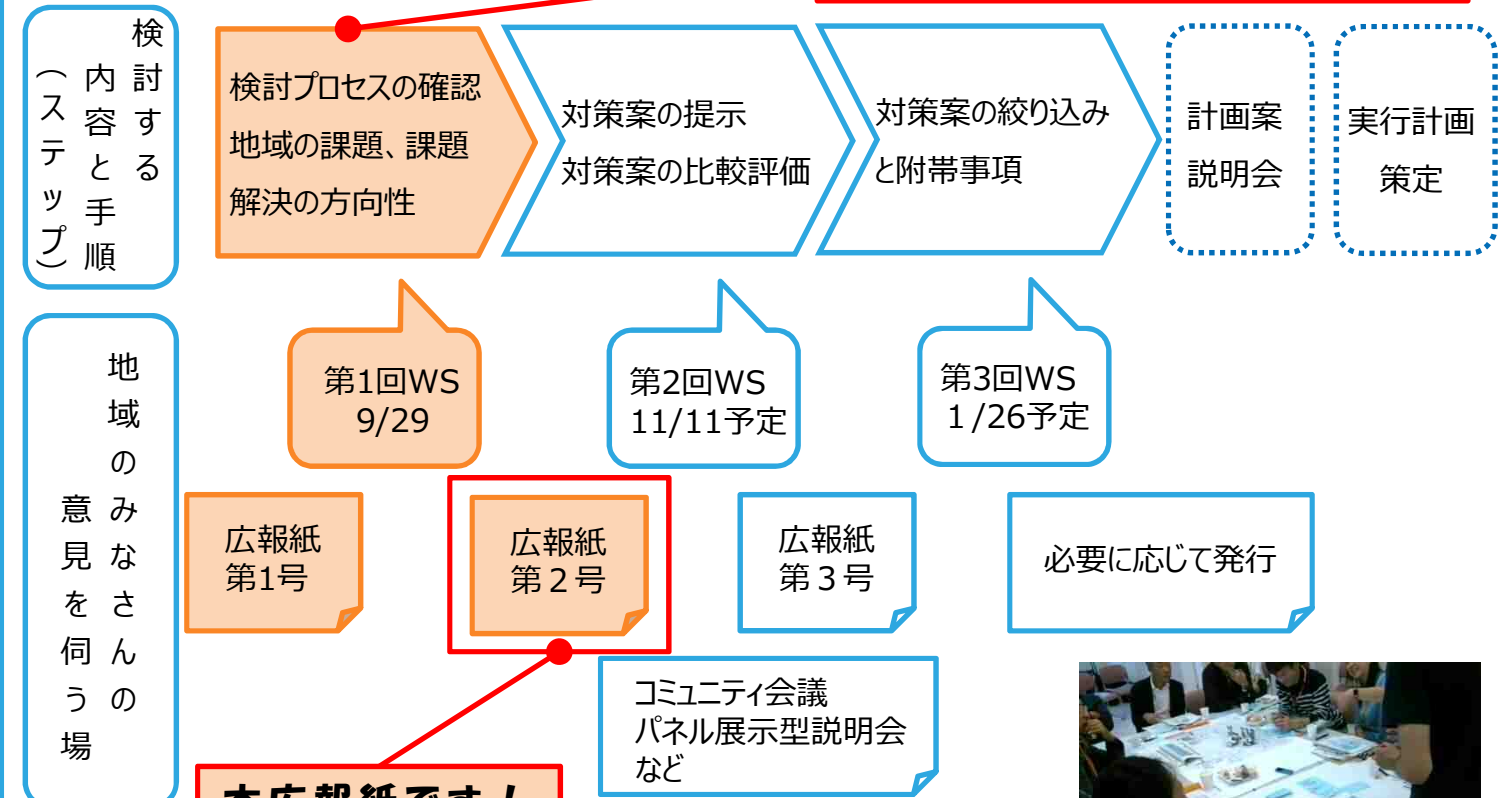
公共施設の今後のあり方について検討を開始しました！

坂井輪中学校区では、新通小学校の分離新設校の整備を契機として、公共施設のこれからを考えるワークショップ（WS）を9月から開催しています。

WSをはじめ、「本広報紙」や自治会・関係団体などに事務局が直接お伺いし状況をお伝えする「コミュニティ会議」などにより、地域のみなさんから様々なご意見を伺っています。

市は、それらのご意見をもとに、地域の公共施設の将来のあり方を示す「坂井輪地域実行計画」を策定します。

現在、ここまで進んでいます！



本広報紙です！

地域のみなさんによる活発な議論が行われました。
詳細は2、3ページをご覧ください。

「すいかのおやぶん」
（「新潟すいか」イメージキャラクター）



第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップでの議論の内容(抜粋)

9月29日に開催された、第1回ワークショップでは、地域内の個々の施設における課題や、課題の解決策について議論されました。また、施設やサービスを地域全体から見たときの課題や解決策についても議論がされました。

1 坂井輪地域が抱える課題について

【施設の維持更新】

- 現在の公共施設は、用途や利用年齢が限定されていたり、自由度が少ないために、利用率が下がっている。施設の量だけでなく、利用ルールも合わせて考えてほしい。
- すべての人が満足できるようにすると、必要な事業にお金をかけられなくなる。参加者や利用者が少ない施設などを見直すことも考えなくてはならない。
- 公共施設にある既存の機能から、不要な機能と新たに必要な機能のバランスをみながら、検討してほしい。
- コストや利用率では評価できない重要な公共施設もあるので、別の視点での評価も加えて検討してほしい。
- トイレの洋式化など、今の社会のニーズに合わせた公共施設に整備してほしい。

【地域の活性化】

- 自治会館のない自治会があり、活動場所の確保が重要。
- ある程度まとまった人数が収容でき、子どもの習いごとや発表会のできるホールがあると良い。
- まちづくりについて気軽に語り合える場や若い人の意見を取り入れられるような仕組みづくりなど、さまざまな人が楽しく地域に関われるようにしたい。
- 既存の公共施設では、料理教室などで使える施設が少ないので、多世代が利用できるようにしてほしい。
- 現在失われた横のつながりづくりや地域への参加のきっかけをつくるために、お祭りのような地域の人と一緒に会することができる空間ができると良い。坂井輪まつりは既にあるが、駐車場が近くに不便だ。

【安心・安全】

- 近隣地域で事件もあったので、子どもの安全面は重点的に取り組むべきだ。ひまわりクラブが小学校内になることで安心・安全面での懸念も解決できるだろう。
- 保育園や児童館の周辺は、道路が狭く、死角が多いところもある。保育園送迎の車のスピードも早く、事故が起きないか心配だ。

【駐車場】

- 車利用者が多い地域にもかかわらず、駐車スペースが少ない施設があり、混雑や事故発生が懸念されているので、十分な駐車スペースが必要だ。
- 施設間で駐車場を共有したり、乗り降りスペースを分ける、公共交通機関の利用促進など、工夫して駐車場不足を解消してほしい。

【子育て環境】

- 財政が逼迫することで、保育園削減で待機児童が出たり、子育て環境が悪化しないようにしてほしい。
- 保育園の送迎や公共施設へのアクセスは、自家用車がほとんどのため、十分な駐車場の設備が必要。
- 子どもの居場所や支援拠点を集積させたり、小学生と未就学児と一緒に過ごせるように機能統合させることで、利用しやすくなるのでは。
- 現在は子どもが増えているが、長期的には少子化が見込まれる。この先の少子化や異年齢交流のメリットも考え、小中学校の一体化なども考えては。
- 子どもをめぐると環境やニーズは大きく変わっている。子ども自身の視点も尊重したい。
- 子どもの居場所を地域住民が運営したこともあったが、担い手の高齢化などでなかなか人が集まらない課題がある。
- 学校が新設されることで、学区が複雑になる。学区を、子どもが一番近い小学校に通学できるように整理してほしい。
- 少子化と言われている中、坂井輪地域は子どもが多いが、子どもが過ごせる十分なスペースがなかったり、屋外空間ではボール遊びができないなど制約が多い。子どもが自由に過ごせる場所を確保したい。

【多世代共生・交流】

- 老人憩の家や児童館など地域の人が集う場が世代ごとに別々になっている。地域を活気づけるためには、多世代利用や自然に人が集まれる場をつくることのできるようにしたい。

【運営方法】

- 公共施設の運営に、地域住民による有償ボランティア、民間団体の力を活用するなど、柔軟な運営ができると良い。
- 同じ施設で、昼間は高齢者支援、夕方は子ども支援をするなど、スタッフが複数の役割を担うことで施設を複合的・効率的に運営できないか。

【民有地や民間建物との統合・連携】

- 公共施設だけ考えるのではなく、商業施設のバランスも考えたにぎわいの場を創出してほしい。
- 自治会館は、使用頻度が多いわけではないので、児童館やひまわりクラブとして活用してはどうか。
- 公共施設で新しい試みをする前に、民間施設を活用してNPOなどが先行して取り組んでいながら考えては。

【高齢化】

- 高齢化が進んでいるので、利用率だけでなく、すでに利用している人の代替機能を考えたうえで、施設廃止等を検討してほしい。

【子どもの一時預かり】

- 保育園の土曜日預かりでは制限があるため、平日夜や土日でも前日に連絡すれば、利用できるような子どもの一時預かりの場がほしい。

【空き家・空き地の活用】

- 空き家が増えているので、公共施設だけで考えるのではなく、多世代交流ができる地域活動拠点として有効活用しては。
- 空き家を自治会館として活用することで、治安対策にもつなげたい。活用にあたっては、市からサポートしてほしい。

2 課題解決に向けた方策(アイデア)、配慮すること

<新通小学校・新通小分離新設校について>

- 公共施設の会議室は予約ができないこともあるので、新設分離校が地域開放されるのは良い。新通小学校の余裕教室も地域開放してほしい。
- 地域開放する場所は多世代が自然に集まることができたり、子どもの居場所に地域住民が関わることができるようにしてほしい。
- 新設分離校のボランティア室や余裕教室は、使える場所や用途を決め込まず、空いているときに柔軟に使用できるようにしてほしい。

<坂井保育園について>

- 通園・通学時間は時間帯が重なるため、交通誘導員はいても、道路が混雑している。
- 建物も老朽化が進み、駐車場も少ないので、小学校や民間建物の部屋など別の敷地に保育園を整備した方が良い。

<老人憩の家について>

- 老人憩の家は廃止予定になっているが、単身高齢者が入浴したりおしゃべりできるような場が確保されるのか心配。
- 老人憩の家の機能は、空き家を活用したり、小学校内に多世代との居場所として機能を集約しても良いと思う。

<坂井輪健康センターについて>

- 坂井輪健康センターの栄養指導室を地域活動に活用できるようにしてほしい。

<坂井輪地区公民館について>

- 公民館の会議室の予約ができず不便に感じているので、活動場所や会議室を拡充してほしい。

3 その他(検討を進めていく上での配慮事項など)

- 坂井輪地域は西区内でも公共施設が少ない場所なのに、なぜ公共施設の見直しを行うのか疑問だ。足りない機能を増やす視点も必要。
- 坂井輪地域は人口に対して、他地域に比べて公共施設が少ないところだ。ハード面だけでなく民間委託や用途の横断的使用など、ソフト的戦略も同時に検討が必要。
- 次世代への負担を考えると、いま公共施設の見直しを考えるのは大事だ。本来はもっと早くに手をつけるべきだった。今後は整備段階で、適正化の考え方を整理してほしい。

<各小学校について>

- 地域活動の拠点や、子どもも大人も楽しめる場や交流できる場として、学校をもっと開放してほしい。
- 子どもたちが自由に遊ぶことができるように、学校を土日も開放してほしい。
- 各校に学校田を整備し、田んぼや畑で食べ物の大切さを日々学ぶことができるようにしてほしい。

<ひまわりクラブについて>

- ひまわりクラブが学校敷地内に入ると、施設面積も少なくなり、安全性も高まって良い。
- 坂井東小学校グラウンド内にひまわりクラブを新設すると、グラウンドが狭くなって、子どもが過ごす屋外空間が減ってしまうことが心配。
- ひまわりクラブ第2・第3は借地なので、返却するか、現在のニーズに合った新たな用途の建物整備に活用しては。
- ひまわりクラブの利用状況を把握したうえで、子どもの居場所として確保したい。
- ひまわりクラブは車で送迎してもらって来る子どももいるので、駐車場を確保してほしい。
- ひまわりクラブ第1のあった建物は、多世代交流の場として活用し、地域の大人と関わる機会を持てると良い。

<坂井輪児童館について>

- 現在の児童館は十分なスペースがないので、保育園やこども園、小学校やひまわりクラブなどの機能の集約化や民営化を検討してほしい。
- 児童館が学校に移転した場合、土日利用やスタッフ増員など使い勝手が悪くならないようにしてほしい。

- 子どもが預けられる場所を充実させ、若い人が住みやすい地域であることをアピールし、若い夫婦を増やしたい。
- 公共施設は、赤字でも必要なものがある。施設の集約だけでなく、今の地域にとって必要な機能を整理したうえで、老人憩の家と地域の茶の間、ひまわりクラブとふれあいスクールなどのように重複したサービスを整理しながら、削減・集約などを考えたい。
- 子育て世帯も増えているが、昔から住んでいる人の視点も大切にほしい。